

第6回 京丹後市学校再配置検討委員会 会議録

- 1 開催日時 平成20年7月29日（火） 午後7時30分～午後9時26分
- 2 開催場所 京丹後市役所 峰山庁舎 2階 201.202.203会議室
- 3 出席者 高野委員長、大木副委員長、荒田委員、高田委員、松本委員、小倉委員
坪倉委員、板垣委員、小松委員、増田委員、小牧委員、平松委員
河田委員、谷委員、藤原委員、沼倉委員 16人
（欠席者）本城委員、野木委員、平林委員、西山委員 4人
（事務局）米田教育長、水野教育次長、高橋教育理事
栗倉教育総務課長、松井学校教育課長、山副社会教育課長
吉田文化財保護課長、谷口総括指導主事
教育総務課 坪倉主任、田辺主任 10人

4 議 題

- ・ 学校再配置の検討について

「分科会が描く学校再配置図」（イメージ図）について〈説明〉

（中学校の再配置について）

5 公開又は非公開の別

公開

6 傍聴人の数

1人

7 要 旨

《議事経緯》

（1）開会

〈教育次長〉

皆様、こんばんは。定刻になりましたので、只今から第6回京丹後市学校再配置検討委員会を開催させていただきます。本日は平林委員さん、西山委員さん、それに本城委員さんからご欠席の通知をいただいております。委員の皆様半数以上の出席により、この会議が成立しておりますことを確認させていただいた上で、進めさせていただきます。

なお、委員の皆様には常に明晰にご発言をいただいておりますが、会議録作成のために、ご面倒でもマイクを是非お使いいただきたいと思います。よろしくお願い致します。

はじめに開会のご挨拶を、高野委員長様よろしくお願い致します。

〈委員長〉

皆さん、こんばんは。暑い日が続きます。今日もまた、お疲れの中にも係りませず、第6回検討委員会の開催をさせていただきましたところ、委員の皆様には何かと用事があったこととは思いますが、出席をいただきまして誠にありがとうございます。

委員会も6回目という事で、本日は中学校の再配置を検討委員会で取り上げるという事のようにございまして、また各分科会でのまとめていただいたものをイメージ図という事で教育委員会の方で作っていただいた資料もございますので、その説明を今からいただくという事にもなっているようにございます。

中学校につきましては3町が1校という事ですので、座長さんからご報告をいただきましても、1校でよろしいという事になるだろうと思いますので、そこの所はなしにしまして、残りの3町を中心に意見を賜りたいと思います。活発な意見を賜りますことをお願いしまして、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。よろしくお願い致します。

〈教育次長〉

ありがとうございました。

それでは続きまして、米田教育長がご挨拶を申し上げます。

〈教育長〉

皆さん、こんばんは。私、任期満了でこの度勇退されました、引野教育長の後を継ぐことになりました、米田敦弘と申します。引野前教育長の手腕ぶり、それから物事の采配ぶりを見ますと、私などとても後を継げるような器ではありませんけれども、一生懸命にだけは務めさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

さて第1回のこの検討委員会が開催されましたのは、丁度1年と10日ほど前ではなかったかなと思います。高野委員長様、大木副委員長様が選出されて、教育委員長から諮問の文章の読み上げがありました。その中には、京丹後市には31の小学校と9つの中学校があるけれども、立地の条件、立地の環境、耐震基準、施設設備の問題、教育内容、児童数の推移等を踏まえて、全市的な立場に立って、様々な教育観点から今後の小中学校の再配置についての意見をお願いしたいという諮問文が読み上げられました。この諮問文を聞いておりまして、いよいよ棘の道のスタートかなと私は正直に思いました。分科会なんかもひょっとしたら途中で分解する分科会もあるのではないかなというような事も思った次第であります。各分科会で検討されましたのも7回から8回、多い所では12回と会を重ね

ていただきました。この検討委員会も今回で6回になります。いよいよ各分科会からの最初のまとめを基盤に、答申に取りかかるところまでこぎつけていただきました。こんなに早く順調に進めていただいたのも、分科会のメンバーの方々はもちろんのこと、検討委員会の方々が今後予想される教育内容や教育活動を巡る諸問題を踏まえながら、全市的な視野でご検討いただいたからだと感謝しております。皆様にはお仕事でお忙しい中、本日もまたお世話になりますことを、お礼を申し上げましてご挨拶とさせていただきます。よろしくをお願いします。

〈教育次長〉

それでは、この後議事に入らせていただきます。この後の議事進行を、高野委員長様よろしくお願い致します。

〈委員長〉

それではお手元の次第によりまして、進めさせていただきます。

はじめに、本日の会議録署名委員の指名をさせていただきます。名簿順位12番の小牧委員さん、名簿順位13番目の平松委員さんを指名致しますので、よろしくお願いします。

続きまして3の議事、学校再配置の検討についてを議題とさせていただきます。

はじめに、各分科会からの最終報告の内容を図面に落とした、いわばイメージ図である「分科会が描く学校再配置図」を配付させていただいております。まず、この資料につきまして事務局から説明をお願いします。

次に前回の第5回の検討委員会で中学校の再配置について先に検討をしてみてもというご意見をいただいておりますので、本日は市内各町域ごとの中学校の再配置について、重点的にご意見をいただければと思っております。

網野町から順番に中学校の再配置について、改めて各分科会座長様からその要点についてご報告をお願い致します。

〈教育総務課長〉

「分科会が描く学校再配置図」イメージ図〈説明〉

失礼いたします。それでは、事務局から、お手元に置かせていただいている資料の説明をさせていただきますと思います。

「分科会が描く学校再配置図」イメージ図という事で、小学校のものと中学校のものと2枚置かせていただいております。現在の学校配置図を下半分に表しております。右の資料のところですが、まず学校数、峰山は6、大宮が3、網野6、丹後4、弥栄5、久美浜

7、計31校を表しております。その下、例えば峰山地域小学校ですと、①から⑥まで小学校がありますが、地図に落とさせていただいてますのは、丁度真ん中から下半分ですか、そこに例えば峰山小学校ですと①峰山小学校が赤くあります。そこが今通学区域の範囲で峰山小学校が建っています。②グリーンが吉原小学校です。薄緑色で、峰山小学校の倍くらいの面積で色が塗られております。五箇小学校は③で、その下のブルーでちょっと大きな面積です。④で上の右側に行っていただきまして、新山小学校、黄色で塗られているところです。⑤が丹波小学校。峰山小学校のもう少し上に行きますが、オレンジで印をしている範囲ですし、⑥が長岡小学校で紫ですね。峰山小学校の下の方に長岡小学校があります。こんな感じで通学区域を落とさせていただいていますが、現在の学校配置図です。今の説明は峰山地域小学校ですが、次に大宮地域小学校ですと、第一、第二、第三がありますが、赤で①が大宮第一、グリーンの②が第二小、③で大宮第三小学校が右側にどんとあります。こんな感じで6つの町域で小学校の通学区域を表させていただいております。それが、この間最終報告書という事で各分科会の報告でありましたのは言葉だったのですが、イメージ図という格好で落とさせていただいたものが、この上半分のものです。例えば久美浜町でしたら、下の小学校の配置図でしたら7つの小学校がありますが、上になりますと同じ区域の中で小学校・中学校を1校とし、小中一貫校を掲げ久美浜を先進地域としてはどうか、今後の人数を考えると2校に統合で良いのではないか、地域のことを考えると統合すべきでないという案がありましたので、どこをどうという分け方は出来ておりませんが、この範囲の中で1校なのか、2校なのか、今のままの7校なのかイメージとして思い浮かべていただけたらなあと思います。例えば網野町でしたら、現状維持、減少を考えると、複式学級の問題等を考えると、第1段階としてはどう、第2段階ではどうというのが出ておりました。ここのイメージ図では橘小学校を1つ書いておりますし、統合1校新設予定が真ん中に円く白くなっておりますし、そこに網野北小とか網野南小とか島津小が入っていくのかなというようなイメージで落とさせてもらっています。こんな感じでイメージ図を見ていただけたらと思っております。

もう1枚は中学校イメージ図ですが、今ご説明した小学校の中学校版です。下が今現在の中学校の通学区域を表しております。右側に学校数で、計9校、中学校名として①の峰山中中学校から⑨の高龍中学校までを表しております。例えば、右上の方でしたら、丹後地域になりますが、⑤で間人中中学校、⑥で宇川中学校。面積がほぼ同じか、右の宇川中学校の方が細長くて大きいのかという感じで面積が見えていただけたらと思いますし、その下は⑦

で弥栄中学校ですね。ここは1校ですので、このエリアという事になります。上にいただいてイメージ図ですが、3地域は中学校が1校ですので、そのままという事であれば、他の網野町であったり久美浜町であったり丹後町というのがどういうイメージで出来るのかという事です。

最終報告書でありました間人中学校の場合、間人中学校もあり宇川中学校もあり、統合1校をどこかに新設するのかというような辺りで書かせて、落とさせていただいたものがこの図面という事です。よろしくお願い致します。

〈委員長〉

ありがとうございました。それでは、順番によろしくお願い致します。

まず、質問があればお聞きしましょうか。

イメージ図の説明で特にお聞きしたいことはありませんか。

ございませんか。

無いようでしたら、中学校の再配置につきまして、網野、久美浜、丹後町の座長さんに説明をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

〈委員〉

網野ですけれども、中学校が2つあって、ここにまとめてもらったのが最終の表現ですけれども、学校の人数的なものも謳っている中で、基本的には人数が減少してくる状況が続くという学校というのは、小学校ですと複式学級というのが考えられる訳ですが、中学校では複式学級はありませんので、クラブ活動や授業の関係という中で1クラスあたり20人を切ってしまうと苦しいのではないかというのが中身的には上がっていました。20人辺りのところをイメージしていくと、学校の規模でいくと、20という数字と60という数字が出るのですけれども、60人で切った場合どうなるかと、そういうことを考えた時に、特に橘中学校の方が問題になってくるのですけれども、100名位の人数にほぼ5年位で人数推移でなってしまう。100人の人数を橘の方から網野に統合しますよといった場合に、結局は交通手段なんです。地理的なものもありますが、交通手段において100人切ったような人数で、バスとか通学面のところをどうするのか、どうしていくべきか。大型バス1台出すとしても、せいぜい55とかいう数字になってくると思うんです。それが、中学校となると部活の関係も出てきますので、クラブ活動の時間帯も話の中には確実に出てきておりました。人数ベースでいくとそういった格好なんだし、地域的なもので、網野中学校の方へ統合という事になってくると、人数だけでなく通学のこと、通学に必要な

な金額的な問題について、義務教育の中でどのように対応を考えていくのがいいのか、というような事も出ておりました。人数背景ばかりが中心になっていくんですけれども立地条件的にも、今網野中学校が改築している状態で、教室の数としては橘の人数が減った場合に網野中学校で受け入れる教室数としては、まず足りるであろうということです。現行、中学校の1学年が4クラスで回っておるという状況ですけれども、教室では、各校舎に1教室もしくは2教室は予備みたいにして使っている教室がある状態ですので、そういう状態の所があれば、現行でも人数だけを見ると足りるであろうと思います。ただ、移動手段を今度は考えていかないといけない。クラブ等の時間帯によっては若干のずれも出てくるでしょうし、その辺のところがどういうふうにフォローしてあげるのか、その辺もする上では地域の方、今までから住んでおられる方との話し合いを含める中で、子どもの教育を受ける場所だけではなくて、それに係っていく通学の手段、いかに安全に、時間的にもそんなにロスがない状態で通えるという事も配慮していかなくてはならない。それと、我々が学校に行っていた時には今ほど塾というものに行くことがなかったと思うんですけれども、今の子どもたちは学校が終わって、クラブが終わる、その後塾に行くというような格好があって、時間の制約も出てくるのではないかなという辺りも考えていってやらないと、人数配分で統合ですよと言われても、後それにつぎ込んでいく余分な時間をどうフォローしてやっていけるのかなというのが、課題の中でも大きなものと捉えております。統合すれば、今ある部活関係でも橘の方がどうしても人数が少なく、クラブ数も少ない、選択肢が少ない中で、統合すると、またクラブ数が増えたりして、若干無いクラブで、自分のやりたい選択肢が増えるという、そういうメリットはある訳なんですけれども、そういうメリットとデメリットを両方兼ね備えていってやって、出来る限りこのデメリットを少なくして、子どもたちが安心して教育を受けられる、勉強が出来る、クラブ活動もまた今までと違って若干でも規模が大きくなる、選択肢も広がった中でやっていけるのいいんじゃないかと思います。地域の図を見てもらいますと、網野は囲んだような格好になっているんですけれども、塩江地区と磯は海側で七竜峠で繋がってはいるんですけれども、京丹後市全域のことだと思うのですけれども、オールシーズン考えると雪の時期というものも考慮していかないといけない。最近は雪というよりも凍結という問題が大きなことで出てくると思われるのですが、距離的に近いよりも安全に通学が出来るという事も、年間を通じては配慮しておかないといけないことだという事が出ておりました。そういうふうなところで、網野の中では検討させてもらって、橘の方からの意見としては存続に出来る限

りもっていきたい、網野に吸収される場合でも条件が色々出てきますので、その辺のところを踏まえる中で、もっていかなくてはいけないというふうなところを議案の中に載せておりましたので、改めて報告をさせていただきます。

人数母体は今申し上げたように1クラス20人が限界だろうかと、クラブをするにも限界であろうというところの線は目安の人数として引かせてもらいました。それもここに書いてある、やむなくという言葉で十分入っておりますので、地域の方からの気持ちを込めた言葉という事で受け止めていただいて、検討の舞台に上げていただければと思いますので、よろしくお願い致します。以上です。

〈委員長〉

ありがとうございました。

教育委員会にお聞きさせていただくのですが、この2校の大きな違いはということで、橘の方が、専門外の授業を受け持つ先生が多いと書いてあるのですが、こんなことは実質あるのですか。専門の先生がいないという教科が何教科ぐらいあるんですか。

〈学校教育課長〉

細かい数字ですとか、先生の手数は調べないと出てこないのですが、主要教科以外の教科は、専門分野の担任教諭、家庭科ですとか、音楽ですとか、美術等は、小規模校の中学校では兼任で持っておられる先生が、免許外の教科も府教委の許可を得て教える、専任の教師を1人付けずに、1人の先生が他の教科も教える実態になっております。

〈委員長〉

法的にはそれでもいいと思うのですが、京都府下に沢山あるんですか。

〈学校教育課長〉

そうです。京都府教育委員会の担任外の教科を教えるという許可をもらって教えています。

〈委員長〉

それは、誰が許可を与えるのですか。

〈学校教育課長〉

京都府教育委員会です。

〈委員長〉

京都府教育委員会に届を出して、専門の先生がいない学校については教えているという事ですね。はい分かりました。

今、網野から説明をいただいたわけですが、どうでしょう、後全部済ませてからご意見をいただくのが良いのか、1地区ずつ今説明いただいたところでイメージがそのまま残っている方がいいのかなと思ったりもするんですけれども、どうさせてもらいましょう。1地区ずつがいいのか、3地区済んだ後でするのがいいのか。

〈委 員〉

皆話を聞いてからでは、あっちもこっちにもなるので、1地区ずつがいいと思います。

〈委員長〉

私もそんな気がしないでもないのです。それでは1地区ずつ行きます。網野地域の中学校の2校は、20人が1つの目途で、学級がそれ以下だと一緒になったらどうかという事でございますが、委員の皆さんご意見をどうぞよろしくお願い致します。どなたからでも結構でございます。

〈委 員〉

今、平松さんが言われましたように、多くの人の移動について、交通手段なりそういった問題について、大変心配されているという事なんですけれども、仮にそれで網野の地域の方、特に橘地区の方が、それなら合併しようという結論が出た時に、教育委員会としてはそれに対応が十分可能かどうか。それがあれば、再配置問題については安心してOKが出るのかも分からないという感じを受けた次第です。

〈委 員〉

付け加えて説明をいただきたいのですが、現状の通学手段も併せてお願いしたい。例えば、塩江だとか磯は凍結するというふうに言われておりますが、現状は凍結しても大丈夫という事になるのでしょうか。全体的に現状の通学手段と併せて説明をいただけると有難いのですが。

〈委 員〉

現状は、基本的に自転車です。学校近辺か網野の中の方は自転車と自転車外等、学校との距離であると聞いております。バスは、小学校は出ていますが、中学校は基本的に出ておらず、自転車と聞いています。家族の人に送ってもらうこともあるでしょうけれども、基本的には自転車通学です。凍結関係云々というのは、回る方向にもよるんですけれども、本当に今安全なのかと言われたら、それも保障しかねる問題はあると思います。現行の手段から、特に多い人数が一括に行くという事になると、余計に考えなくてはならないという事だと思うんです。網野だけではないと思うのですが。橘の方から網野に行くとなると、

当然引原峠を越えていかななくてはならないという格好のものが出てくると思いますので、その辺のところが話の母体に上がってきたという事です。

〈委員長〉

ありがとうございました。

今、通学の関係で高田委員からもあったのですが、バス通学をする場合には、こういう条件のところは一定、バス通学という事も視野に入れたものが要るのではないかと思うんです。ただ、無理やり統合したんだから通学バスだという、こういう理屈ではなしに、極めて分かりやすい形のものがあるんだろうと思いますが、何かイメージされているものがあるんだったら、少し説明をいただきたいと思います。

〈教育次長〉

イメージというより、スクールバスの現状についてご説明させていただきます。

〈教育総務課長〉

失礼します。教育総務課長です。

お手元の検討委員会と分科会の資料の中で、資料4の関係が通学の距離とか、資料4－1で通学距離調査表、資料4－2で通学手段、資料4－5で市内の公共交通路線図、スクールバス路線図を付けさせていただいております。例えば資料4－2で通学手段ですが、ここで学校の名前と徒歩と自転車とスクールバスと路線バスを使っているという事で、それぞれ地域を書かせていただいております。徒歩もありますし、自転車もあります。今言われましたように、スクールバス、あと路線バスといいまして、久美浜の場合は市営バスとスクールバスとの混乗バスという事で走っております。あと、地図で言いますと資料4－5ですね。ここで、この路線という事で、特にスクールバスの場合は、合併前の旧町からの統合の時の約束でスクールバスが走ったりという事で、京丹後市の一定条件の中でスクールバスを走らせていると言い切れないところがあります。先ほどありましたように、高田委員さんの方からでしょうか、交通手段、スクールバス等の手当てが再配置になった時にされるのなら、また心境も変わってくるだろうという事もあるのではないかという意見があったかと思いますが、再配置が出来ました暁には、当然今のことでなく、再配置後の交通手段を一定の京丹後市の考え方の中で定めていくというふうに思っております。現状は、ここに落とさせていただいている通りです。中学校の場合でも、大宮中学校は冬季のみスクールバスをその地域限定で走らせています。冬季限定も年間を通してもあります。例えば、新しいところでは去年でしたか、丹後町の砂方の子どもたちが、道路が遮断され

て通行止めになった関係で、1年半位間人小がスクールバスを走らせたという経緯もありますし、峰山町でも橋木地域に冬季間、18年度からでしたか、走らせているという現状もあります。以上です。

〈委員長〉

ありがとうございます。

現状は分かるんですけども、遠いからというイメージしか分からないんですけども、生徒さんが何人とか、距離がとか、峠がとか、スクールバスの東ねてきた内容は、具体的にどんな中身でこれを決めておられるんですか。

〈学校教育課長〉

今、合併以降に新しく走らせました丹波小、この前まで走っておりました砂方については一定特殊事情があったりしますが、基本的にスクールバスは旧町時代の学校統合で旧町と地元保護者と合意をしてきた内容でありますので、必ずしも全てのスクールバスが同じ基準で走っているというものではございません。それで、スクールバスの対応、遠距離通学の補助金を支給する内容も6町によって違ってまいりますので、教育委員会としましては、今回市内全域の40校の学校再配置を検討していただいておりますので、その答申を受けて次に実施する場合には、遠距離通学の補助金の内容ですとか、スクールバスを走らせる基準の統一ですとか、こういったものを併せて事務的には進めていかなくてはならないというふうに考えております。主だった内容としましては、旧町時代の判断としましては、当時の文部省が出しておりました遠距離通学の考え方というのは、小学校4キロ、中学校6キロが1つのキロ数での判断となっております。

従って、小学校は4キロ以上であれば、路線バスだったり、スクールバスだったり、中学校も6キロ以上であればスクールバスを出したり、若しくはスクールバスの手だてが出来ないところについては、遠距離通学補助金で援助したりとかという形になっております。

〈委員長〉

今の説明で、特にお聞きすることがございましたら。

他に委員の皆様で網野の中学校の統廃合についてご意見を賜りたいと思います。

〈委員〉

後で色々検討すればいいことかも知れないのですが、私は丹後町なので、丹後町のことも頭に描きながら網野の話を聞いておりましたけれども、2校が良いと冒頭には出ておりますけれども、しかしながら微妙なところで、いずれは1校が良いというようなニ

ュアンスが非常に強く印象に残るような気がするのですが。本当は1校にすぐにしたいような気持ちがあるけれども、当面は2校にしておいたらどうかというような事で、このようなまとまり方があったのかも知れないなという気がします。他の町のことに今触れることはないのですが、分科会の方々の意見、個性がある方の色々な意見とか、全体のまとまりの中で、どういうふうなまとまり方になってきたのかが、それぞれの町によって違うかも知れないんですけども、2つに分かれたというのが非常に重要だなあというふうに感じております。まとまりがないですけど、以上です。

〈委員〉

お伺いしたいんですけども、網野中学校にもし1校になるとすれば、久美浜町箱石は橘中学校に行ってますね。それが、1校になった場合、網野中学校へ行くよりも久美浜中学校に行った方が、何かいいような感じがするような気がします。一番最初に話をする前に、境を越えないというような事がありました。こうして地図の上で見ますと、距離がどの位になるのかなと思うと、6キロ以上になりますね。先ほど平松さんがおっしゃったように、スクールバスなり、路線バスなりになってきても、住所の問題とかそんなことを考えますと、久美浜中学校へ行った方がいいような気がします。一番端の方で、もし網野中学校に1校になったとしたら、網野中学校へ行くよりも久美浜中学校に行った方が、距離的に近くないかなと思います。久美浜町箱石でしたら町をまたいで行くことになりそうですね。久美浜町箱石でございますので、一番最初の話とはちょっと違いますけれども。

〈委員〉

今話がありましたような事で、あくまで基本路線のところから検討していますので、現行の校区を中心にしていって、中学校は網野と橘とそこに通っている子どもたちがそのままのかたまりでどっちに行くものなんだと、町域を越えないといえますか、学校区は今行っているところを変えないという事で検討させていただきました。それを出してくると、果たして地図で見る限り、三津の端の方はどうなんかと言いますと、砂方に近い方からも三津小へ行っておられる方がおります。それは箱石だけでなく、中学校に通うことについても、ぎりぎり砂方でも大丈夫だなという事があります。それは検討外として、現行の中の校区で、橘と網野という事で検討させてもらっています。

〈委員長〉

今の質問につきましては、この検討委員会を立ち上げた時に、旧町は越えないという話でおりますという事で、枠を外してという事になってくると、また改めて各分科会が混乱

するだろうと思いますので、そのところは一応、町域を越えないという範囲をご了解いただいた上でのご意見を賜りたいと思います。

〈副委員長〉

先ほど、スクールバスだとか、色々な問題が出てましたが、私は大宮で、五十河中学校と大宮中とが合併する時に、まさしく同じような議論をしたんです。しかしながら、上手いこといかなかったのが、理由は何かと言うと、クラブをする子とクラブをしないで帰る子と差があるんですね。クラブをしない子はずっと帰ってしまう。しかしクラブの子は後から残るという事で、あの当時、スクールバスの話も、確かに色々な議論があったと思うのです。けども、結果的にはやはりクラブがしたいから自転車で行くというふうに大方の子はなってしまったんですね。バスで帰ってしまうとクラブができないからという事なんで。教育委員会もおそらくこの問題を出すと大変な、色々と議論が出ると思うんですけれども、子どもたちがクラブとか色々活動しようと思うと二重のバスを出してやらないと、もしも今の現状を考えるとそうになってしまう。もしもそれが、クラブをしたいというのでしたら、自主的に自転車通学というのが基本になってくるんじゃないかなと思います。親がいちいち迎えに行くという事は、多分難しいと思います。それと先ほど、凍結という話が出ましたが、大宮町五十河に入道峠という大きな峠があるんですね。この時の議論で、五十河の人たちが言ったことが、滑らんように除雪をせと、合併をした当時のブルもそんなに沢山無い時もそんなことを言われたんです。その代わり、今の現状でも入道峠に一番に除雪が入る、どこをほっといても一番に入るという事は守っていつていると思います。その辺のところは、今後の建設だとか色んなことの協議だと思いますので、スクールバスの設定をどうのこうのという事になると相当議論が出てくるんじゃないかと思いますので、帰る子どもたちのことを考えると、クラブを優先させるとしたらある程度のことはリスクがあるんじゃないかなという気がします。当時の大宮で、五十河が合併した時に水野次長さんも覚えておられると思うんですが、五十河の人たちは岩滝に出て行くと言って、大宮には行かないと言われたんですけれども、どっちも同じように峠があったので難しかったんですが。そういう議論を、確かに今、平松さんが言われたようにも、ずっとしました。しかし、1つ考えたのは、子どもたちがクラブをした時には、この辺のところが微妙な問題になってくるという事を、ちょっと頭に入れておかないといけないと思います。以上です。

〈教育次長〉

先ほど、久美浜町箱石の問題が出ましたけれども、箱石はもともと久美浜町域に属しておりますので、今回学校再配置が実現した暁には、箱石は本来の久美浜町の中学校なり小学校へ通学していただくといったことも、いわばねじれ現象をこの際直すといったことのきっかけになるかとも考えております。

〈委員長〉

他にありませんか。

〈委員〉

峰山なんですけれども、ずっと前に峰山町の時点で五箇分校の統廃合をご存知のことだと思いますけれども、丁度その時に教育委員でございまして、五箇の方に出かけて行って色んな声を、統合反対という声を聞かせていただいた経験がございます。実はこの前も峰山の分科会の中で五箇の方たちにそのお話をしていたんです。ただ、もっと色々な反対意見が出るのかなと思っていたのですが、やっぱり、あれはあれで良かった、今、言われてみれば良かったという意見が出ていました。

そういったこともあって、我々峰山の場合は、中学校は現状通り、小学校についても、わりあい五箇の方たちの方が、今となっては、さっさと一緒になりたいという意見が出ていました。少し先にいった形で、例えば、さっき見ていたんですけれども、橘中学校は、現状では123人、これが25年になると95人に下がってしまう。30人以上いなくなってしまう、と同時に去年の網野町でお生まれになった方は108人、それだけしかおられない。こういった中でいくとなると、橘中学校どうこうという以前の問題があります。やはり、本当に子どもたちのことを考えると、少し考えていかなくてはいけないのかなと思います。五箇分校と僕自身はそんな関係があったものですから、ちょっと私的な話で申し訳ございませんでしたがちょっと申し上げさせていただきます。

〈委員長〉

はい、ありがとうございました。

平松委員さんに聞きたいのですけれども、1学年が20人を割るというのが一番重たいですか。再配置に向けての一番の思いが、ここにあるのかなあと。

〈委員〉

正直に言って、橘の方も学校の存続が一番なんです。一番なんですけど、今言われるように生徒の推移ですよね。今の3年生から小学校の1年生まで出ているわけです。ずっとこれを辿っていけば、中学校の5年後、ほとんど10年近く先まで見えるわけなんですよ

ね。その人数を今の小学校1年生が中学校3年生になった時、この小学校1、2、3が中学校1、2、3になるその場合を想定したんです。その場合に、本当にこれで存続してって、子どもたちの教育の環境や今の状況は維持出来るのか。親としては、自分が出た学校であり、地域に学校が欲しいという思いの中でかなりの回数をやってきましたけれども、人数母体、学校の規模という事で、地域の広さで考えるのか、人数で考えるのか、といった場合に、やっぱり人数で考えることを一番においていかないと、生徒数がないと先ほどの話じゃないですけど、専門の先生の数も確保出来ないというような事も出てきたんです。そうなってくると、人数母体はどこが限界なんだろう。クラブ活動をするにしても、3学年で60人を切ってしまうと、部活をどうやってやるんだろうかと、いくつの部活が残るんかと。勉強にしても学級あたり学年で20人切ってくると、その上に進学していく高校とかいうことの母体を考えて、本当にそれでいいんだろうかというような事も、文面に入っているように、止むを得ない、その状況を目指しているなんて、正直に言って分科会の中で、こういう方向性で検討してもらうのにかなり不満を持たれた委員さんもおられるかと思うんです。ですけれども、一面だけの、統合しないというだけの検討では、意見としては持って上がれないだろう、他の町を見ても、3町は既に中学校は1つですよ、その中で、人数が増えるんならまだいいんですけれども減る方向なんで、やっぱりもしも統合というものを止むなく考えなければならない場合には、網野としてはどう考えますかというところから絞り出してきた人数でもあり、統合の意見を出してもらった集約というふうに考えていただければと思います。その代わりに色んな条件は出しておりますけれども。

〈委員長〉

では、20人を切ればというのは、検討分科会の委員さんは、そこはそんなに抵抗ないのですか。

〈委員〉

一応のボーダーラインとして、ここは限界だろうと。20人を切るような事が継続されるようであればというのが文面には付いております。

〈委員長〉

はい、ありがとうございました。

〈委員〉

網野町さんと丹後町とは峠を挟んで中学校が2校あるという事で同じような状況でして、

今聞いていますと、20人を切ったというような事を言われましたんですけども、丹後町の場合は、平成25年になると間人が131名、宇川が32名という事になり、今考えていったら全然学校になっていないといったような状況です。そんな中で私たちの分科会の中では、なんぼ少なくなっても、学校がなくなるという事は、地域が寂れるという事を委員さんの方がもの凄く言ってまして、これでは先、ずっと平行線が続いて壁がなくなりませんでした。同じような状態が続きました。

〈委員長〉

はい、ありがとうございました。

〈副委員長〉

橘さんはクラブ活動が盛んだと聞いているんですけど。中学校の大会でも結構優秀な成績が残っているという。クラブ活動に入っている子は多いという事ですか。

〈委員〉

ほとんど全員入っているわけですけども、やっているクラブ活動自体は、正直言って力を持っています。ですけど、どっちかと言うと体育会系の方が多いので、中には文科系のことをしたい子がいても選択肢がないので、保護者や委員さんからは網野中には文科系があるので文科系に入りたいけれども今は体育系に入っているんですと、そういう分にはメリットがあるのかなと思います。そういう声もあがっていました。

〈副委員長〉

ちょっと、お伺いしたいんですけども、親御さんの方から、正直な気持ちとしてもうちょっと広い視野で勉強させてやりたいなあという意見もあるように聞いているんですけども、やっぱりそれはその通りですか。

〈委員〉

そうです。現行でも、側から見ていても確かに力があったりして、大会でも優勝とか表に出る部分は確かに出ているんですけども、ずっとそこで育っておられて地域で育ってこられた方と、また、他のところから入ってこられたご父兄の方もおられますので、若干ここよりも大きなところで育っておられた方については、具体的にいうと網野中学校で育っておられた方が橘の方へ住まれたという場合に、子どもたちを橘中学校に行かせたところが、クラブの選択肢的なところがそのような事で、出来れば部活的にも数があるともう少し別の活動も出来て良かったなという事が出ていましたんで、現行の人数ではこれ以上クラブ活動を広げられないという事はあるという事で聞かせてもらいました。

〈教育次長〉

今の橘中学校のクラブの問題ですけれども、19年度の実態で、お手元に配付している資料に出っていますが、軟式野球男子で34名、バレーボール女子20人、バスケットボール男子25人、バスケットボール女子17人、卓球男子2名、卓球女子18名。これが橘中のクラブ活動の全てです。

〈委員長〉

ありがとうございました。

それでは、次に丹後町に入らせていただきます。丹後が済んだ後で時間があれば、全体でご意見をいただきたいと思いますので丹後町さん、よろしくお願い致します。

〈委員〉

丹後町です。丹後町は、中学校としては宇川中学校と間人中学校とあるんですけれども、まず最初に間人中学校に宇川中学校が合併しては如何ですかという意見を出したんですけれども、宇川中学校の方は少人数でも現行を堅持していきたいと、少人数を活かした学習も出来るし、今までの2校で良いという意見が多々ありました。しかし、第6回目位から、そうでなくて、間人中学校と宇川中学校の間の方に1校新しく建てたらどうかというような意見が出まして、委員の皆さんにも、それでもいいじゃないかなという意見が出ました。決をとっていただいたところ、6対4ぐらいで、宇川中学校は現状維持した方がいいじゃないかという意見が出ました。間人中学校の方は耐震の問題がありまして、体育館辺りは本当に耐震が殆ど無いというような状況がありまして、間人中学校に宇川中学校が統合したら、ちょっと耐震の問題があるんじゃないかなという事で、中間的な竹野地区辺りの広い所で学校を建ててやったらどうだろうかという意見が出ました。宇川中学校の問題は、人数がだんだん下がりまして、平成25年では先ほども言いましたとおり32名というほとんどクラブ活動の出来ない状態が続きます。これではどうにもならないという事で、間人中学校の方に合併したらどうでしょうかという事を盛んに言ったんですけれども、宇川中学校の方は少人数でも十分学習も出来るし、そのままやっていこうというふうな状況に最終報告案はなっております。宇川中学校は保育園から中学校まで、同じ生徒で人間関係が心配だとか、クラスも皆同じような、運動会等にしても走る前から1番が決まっているという状況が続いていまして、私としましては中間案あたりが本当にいいんじゃないかなと思っているんですけれども、現状の2校案で間人の方は進んでいると、最終案は2校案で行きましょうという事になりました。以上です。

〈委員長〉

はい、ありがとうございました。

委員の皆様、ご意見をお伺いしたいと思います。どなたからでも結構でございます。

〈委 員〉

谷さんのお話を聞いておまして、間人中学校は合併しても耐震の値が低いと、危険だというお話だったんですけれども、資料5－4に書いてありますのは宇川中学校も間人中学校も危険だというふうに書いてあるんですけれども、その辺はどういうふうに話をされたんでしょうか。

〈委 員〉

間人中学校は40年以上経ちますので、宇川中学校の場合はまだ新しく、それより5年から10年後だったと思いますので、宇川中学校の方がまだ新しいし耐震の方ももう少し大丈夫ではという事で話をしました。

〈委員長〉

分かりましたでしょうか。

〈教育次長〉

間人中学校は建物に問題があることと、土石流の危険地域になっていることです。宇川中学校は建物については新しいのですが、土石流の危険な地域です。

〈委員長〉

建築年度はどのくらい違うんですか。

〈教育次長〉

間人中学校は昭和41年、宇川中学校は58年です。

〈委員長〉

ありがとうございました。

他にございませんか。

〈委 員〉

今の問題ですけれども、両方とも土石流の危険地域の指定になっているわけですね。教育委員会としても考えていかななくてはならない気がするわけですけれども、今の谷さんは、両方やめにして真ん中に新しく建てるというお話でしたけれども、教育委員会としてはどうでしょうか。

〈教育次長〉

お答えになるかどうかは分かりませんが、危険な地域は避けなくてはならないと思いますし、危険な建物はやはり早急に何とかしなくてはならないと思います。極めて抽象的ですけれども、お答えとさせていただきたいと思います。

〈委員長〉

現在、京丹後市で、中規模校以上で、何年くらいで建替えをやっておられるのでしょうか。大体のところをお願いします。

〈教育次長〉

何年経ったら建替えという事はなくて、木造から鉄筋コンクリートまで耐用年数がありまして、それを目安にしますけれども、それ以内には建替えるという事で総合的に判断していきたいと思っております。

〈委員長〉

他にありませんか。

委員長ばかり聞いていて悪いんですけれども、丹後町の場合 2 校で存続という事なんですけれども、私が気になる事は中学校で専門の先生がいない教科が沢山できるような状況の中で、本当に学校として存続させるという事が、地域の方はそれを許されるという事なんでしょうか。

〈委員〉

学校としてはどうですかね。

〈委員長〉

今日はたまたま、橘中学校でそういうことがあるようですから、まさに宇川はそれ以上ではないかと思っていますので。

〈委員〉

分科会の委員さんは、少人数でもとにかく昔の時代から色々と学校が統廃合になり、地域が寂れていく状況をずっと見ているんです。それを見ながらずっとやっていますので、またこの宇川がなくなるという事は、切実に感じておられるんです。僕らとしては、クラブも大きいところに行って、何と何が自由に出来る方がいいんじゃないですかと質問するのですが、いや、そうじゃない。少なければ少ないなりの人数で頑張ってやっていこうという委員さんが結構いたんです。もうちょっと柔軟な考え方で考えていただいたらいいんじゃないかと言ったんですけれども、なかなかそこまでいかなかったです。

〈委員長〉

ありがとうございました。

学校の関係で、専門外でこの教科が限定されていて人数が少なくなってもその教科以外は配置されるという事で理解していたらよろしいでしょうか。

〈教育理事〉

教育理事です。

教職員の定数といいますのは、基本的に学級数で決まるわけでした、例えば3学級の学校であればその中で教員を8名配置するとなります。当然、必然的に学級数の多い学校の方が教職員が沢山配置されます。それから配置の仕方ですけれども、中学校の場合は、基本的には校長がどういう配置をしようかという事で教員配置の基本はされるんですが、教科によりまして、中学校の場合ですと、数学、国語、英語等は当然週あたりの時間数も多くなってきますし、3クラスあれば、週あたり多いところは4時間から5時間授業を持ちますので、例えば英語であれば、週あたり4時間であるならば、それがクラス数だけ必要になってきます。そして、教員の場合は、大体20時間前後が1週間あたりの持時数と考えております。そうなりますと、技術教科の場合は、週あたり1時間少しの時間しかないわけです。3クラスありましたら、1週間で3時間あまり、選択教科も入れまして5時間程度の授業の持時数があれば、例えば技術であればそれで収まると思います。但し、1週間に5時間の授業でそれだけ技術の専門教員を配置していきたいというのは、到底無理ができることなんです。という事で、教職員定数もそこまでの数がありませんし、そういうことで考えてみると、どうしても国語、数学、社会、理科、英語の主要5教科に教員が固まってくる。数学の教師が、残りの、例えば技術家庭とか、美術とか、そういうような教科を専門外で教えていくという状況にならざるを得ない、そういう現実があります。基本的には学級の数で定数は決まっていくものという事でご理解いただきたい。以上です。

〈副委員長〉

今宇川中学校の先生は何人おられるんですか。12、3名ですか。

〈教育理事〉

12、3名いません。

〈副委員長〉

私は実はこの春、本庄中学校で地域の色々な話をしてくれという事で行きました。本庄中学校は32名です。あそこは先生が、校長先生も入れて12名おられました。子どもたちと面と向かって30人位ですので、1時間半ほど喋らせてもらったのですが、そ

の中に、本当に現実だと思うんですけど家庭科の好きな子がいると、女の子が私に言ったんです。そういう専門学校に行きたいと、本庄中学校ではそういうことを教えてくれる先生がいないという事を彼女は言いました。たまたま色んな話をしていましたら、野球部でも8人位でやるそうです。先生が入って、やっと9人になるというような事を言いました。先ほど話はだぶったんですけれども、本庄中学校も伊根中学校に行こうと思ったら峠があるんです。けっこうな峠があるんですね。今間人の話を聞いていましたら、人数的にも宇川とよく似た条件なんです。私が1時間半ほど喋った後から30分質問の時間があつたんですけれども、その時子どもたちが、子どもたちの方がもっと勉強したい、もっとこんなことをしたいと言うんです。先ほど運動会の話をされましたが、僕も昔、常吉の小学校で、運動会といったら決まっていたんですよ。走らなくても、あなたが1番、あなたが2番と、それが合併をしてみると、自分より速い子、色んな勉強をする子、色々な子がいると思うんです。そういう子を見つけた時の子どもたちの気持ちを大事にしてあげたいんです。本庄中学校でも、そういう気持ちをもってくれと言ったんですけれども。そういうことで是非、親御さん、もうちょっと柔らかくという事を言われましたけれども、親御さんの方も、もうちょっと本当に柔らかくしてもらって、俗に言う、井の中の蛙という言葉が使われるのですけれども、もうちょっと広い範囲で勉強させるという形をとっていかないと、子どもたちと話しますと、家庭科のしたい子は切実に言うんです。私は、洋服屋さんになりたい。そういうことをしたいんだと言った時になるほどなと思って、私がたまたまこういう委員をしているから行ったわけじゃないんですけれども。体験学習で色々な話をさせてもらったんですが、子どもたちはやっぱり正直ですよ。その辺のところは議論の中で大事にしてもらいたいなあと、私は個人的にはそう思います。

〈委員長〉

時間数の少ない家庭科とか、学校の併任というのは、あり得るのでしょうか。

〈教育理事〉

基本的に、本務者の場合は併任はありません。もう少し付け加えさせていただきますと、本務者でなくて講師をあてがう場合があります。例えば、宇川中学校と橘小学校に家庭科の非常勤講師を2校に3時間ずつ1人にあてがうという方法がありますが、それも時間数が限られておりますので、そのやりとりは相当苦勞させていただいております。先ほど話をさせていただいたのは、あくまで本務者という事でご理解いただきたいと思います。

〈委員長〉

他にございませんか。はい、どうぞ。

〈委員〉

先ほど大木さんがおっしゃいましたけれども、この間、私もわんぱくアウトドアにボランティアで参加させてもらいました。その時25人なんですけれども、関わりながら子どもたちはどうかなと思って見ておりました。同じ学年であっても、子どもたちは自分を前に出したくても出せない子と、自分で何でも前に出せる子とあるんですね。丸1日かかってやっと自分を、自分から出していける子もありますし、さっきおっしゃったように、子どもが本当に勉強したいなら、地域の親はそこをもう少し考えて、人数もそうでしょうし地域性のこともそうでしょうし、まちづくりのこともそうでしょうけれど、無くなってしまうのが寂しいのももちろんだと思いますが、子どもたちが本当に何を望んでいるんだろうかと、峰山でも小学校の話をする時にありました。ですけどその先を、もうちょっと先を考えて、本当に子どもたちはそういうことを望んでいるんだろうかと、地域の親も考えていかなくتهはならないと思いますし、人間形成の上で、幼稚園から中学校を卒業するまで同じ人間関係の中で、それも大事なことだと思います。しかし、さっきおっしゃったように統合した時に、自分よりよく走る子がいる、自分より勉強できる子がいるというところで、子どもの気持ちがどうだろうか、凄く大事なことはないかなと思います。そこで闘争心が生まれたり、競争という部分も勉強させてもらったりするんじゃないかなと思います。私の友達に娘さんがいて、その友達に聞いたんですけれども、今、中学校に入られて1学期間かかったという、ずっと自分を出せる子なら入学した当時からでも友達が出来たのに、1学期間全然出来なくて、夏休みにもう学校行きたくないと言わないだろうかと、2学期ハラハラしたというお話を去年聞いたんですけれども、そんなことも中にはあるんじゃないかなと思ったりしていました。

〈委員長〉

それでは、申し訳ないんですけれども、次に久美浜町に入らせていただきます。よろしくお願い致します。

〈委員〉

久美浜町では、検討分科会が始まりまして、中学校の再配置を考えて、最初から色々な生徒数の推移やクラスの数、クラブ活動のことを考えて、1校にした方がいいという意見が出ておりました。ただ、地域的に広い範囲で1校という事を考えた場合に、久美浜中学校、高龍中学校どちらかの施設を使うことになったとしても、生徒の負担が通学の面で大

きくなるのではないかという事が、当初から問題になっておりました。また、検討分科会が始まりまして、間もなしに高龍中学校の生徒の不幸な事故があったこともありまして、やはり保護者の方にしてみれば、1校にするのはいいにしても通学という事の安全性を徹底して欲しいという意見が大半出ておりまして、この広い範囲で中学校を1校にするには、まず学校の施設を中心にもってくるのが一番いいのではないかと、お互いが久美浜中学校も高龍中学校の生徒も平等という言い方はおかしいのですけれども、同じ負担を負うという意味で中心に学校の施設を持ってきて、新設という事を考えて欲しいという意見が沢山出ておりました。ただ、新設が無理なようでしたら、これは極論ですけれども、今の久美浜高校に中学校をもってきて、高校生にしてみたら駅に近い場所の方がいいんじゃないかという事で、入れ替えて久美浜高校に今の久美浜中学校のところに行っていて、今の久美浜高校を中学校の施設として利用させてもらえたらという意見も出ておりました。久美浜の場合、本当に広い範囲ですし、徒歩、バス通学、自転車通学の3種類の登校手段となってくるんですけれども、自転車通学の場合にしても、道路整備がなかなか行き届いていなくて、今までバス通をしていた子が、1校になると自転車通学に変わったりと、1校になることによって通学手段も大きく変わってくるという事で、保護者に見てみたら、とにかく通学手段の確保の徹底という事をしていただけるならば、それに越したことはないという意見がほとんどでした。それと、中学校を今の新設という事で、久美浜高校の辺りの中心地に新設して欲しいという事ですが、それと並行して小学校の話になるんですが、中高一貫という他にない新しい事業の取り組みをして、モデル事業として補助金をいただくような事がないのかなという意見も出ておりました。久美浜町は以上です。

〈委員長〉

どなたでもいいので、ご意見をどうぞ。

〈委員〉

弥栄です。先ほどから3町の中学2校を1校にという事ですが、各町の座長さんがおっしゃられることはもっともな話だと思うんです。基本的に既存の建物を使うという事になっているので、非常にこの2校あるのを1校にするというのは、まちづくりの観点から言っても、その町民の方にしても、やはり統合するなら中心にもっていきたいというのが、丹後町でも、今の久美浜町さんでも言われるその通りだと思います。僕はその地域の人間であれば、やはり小学校を1校にするにしても、端々にあるわけですから中心にもってきて欲しい。当然そういう意見は出てくると思います。やはり、網野町さんも橘中学校の通

学の問題で、通学距離が遠くなるという事ですし、網野町さん、久美浜町さん、丹後町さんの意見は、統合するなら1つ中心にもってきて欲しいというのが、親御さんの切実な願いだと思います。先ほど話が出ております、30人から31人位というふうな学校は、これからは通学どうこうよりも、子どもたちの為にはあまり好ましい状況ではないというふうに考えられます。今のところは以上でございます。

〈委 員〉

網野の松本でございます。

今のご意見に重ねてお伺いするんですけれども、新設というのは住民の立場からすれば、中心にというのは誰でも思うことですが、しかし、小学校の問題がこの後出てきますね。その時、この検討委員会として、そこまで立ち入って検討出来るのか、教育委員会あるいは京丹後市として、新築を伴う1校という統合を、最初の考えでは既存の校舎を利用するとなっていますので、先ほど委員長が通学区域の問題についてはさっとはねられましたので、そこら辺をどう今後検討委員会の中でまとめていくのかという、非常に難しい大事な部分ではないかと思います。これが全体に大きく影響するのではないかと考えています。

〈委 員〉

私もそう思いました。今松本さんがおっしゃったことが、丹後町の分科会で2つにしたという意見を重視するという事もあった中で、それ以上議論の余地がないと私も捉えていました。2つにして欲しいという事は、合併しないという事。でもやっぱり、先ほどもおっしゃったように、32名の中学校では真の中学校教育は成し遂げられないんじゃないかと思い、大木さんの意見だったり、大木さんの意見に私も賛成したいと思います。やはり、もう少し切磋琢磨できる、そして先生の力をもう少し利用できるというか、子どもたちに還元できる環境を長い目で見たら作ってやるべきだというふうに思います。そして、もっともっと歴史を考えてみたら、無くなったけれども新しく出来てきたという事だから、指導者である教育委員会か京丹後市長であるかは分かりませんが、分科会ではこういう案だったけれども、長い目で見た京丹後市の子どもたちの為には合併が必要だというリーダーシップを是非とっていただきたいと思います。やっぱり30人何がしでは、世界に向けての、少し大きいかもしれませんが少し力が弱いのではないかなと思います。それと、先ほどから聞いていると、1校となった場合、中心へ中心へという中で、私は別に1つ宇川の方に、中心でなくてもいいんじゃないかなと思います。別に中心にいかなくても、同じバス通学をするのなら、どんなところにも、耐震を備えという中で考えていってもい

いんじゃないかと思います。そうしたら、宇川地区の特徴はなんだろうかという地域の発展の仕方を考えていくのも、農業であるのか、漁業であるのかというあたりもあるかも知れませんが、そういう新しいまちづくりを発想していってもらって、中心という物の考え方はちょっとふってもらった方がいいかなと思います。皆さん、中心へもっていこうという考えが大半ですけども、私1人かも知れませんが、別に中心から外れてもいいんじゃないかなという考えを持っています。それと、どこかで皆、1つにならないとしょうがないんじゃないかという根元というか、皆さんのご意見を聞かせてもらっている中で、あるんじゃないかと私は聞き取りました、私の勝手な聞き取り方かも知れませんが、交通手段の安全というのが最大で、今の京丹後市の通学の道を見ていると、歩く人に優しくないと思います。車に優しいかどうかはあれですけどもね。やっぱり人に優しい道作りというものを、教育だけでなく考えて、まちづくりという意味でも歩く人に優しい道作りというのを視野に入れていただきたいと思います。それと、少し過去に帰るかもしれないのですが、寄宿制度というのはどうなのかと、それは少し考えが古いかなと思っています。それは全然視野にないんでしょうかという事をお聞きしたいと思ったんです。

〈委員長〉

松本委員なり、荒田委員なりのご意見に対して教育委員会でコメントがあればお願いします。

〈教育長〉

寄宿舎という事ですが、寄宿舎がある学校があったんですが、だんだんとなくなって、高龍が最後まで頑張っていましたけれども、そこも無くなりました。今度、通学距離がどの位になるかという事によってまた復活してくるかもしれませんが、大変難しい問題です。夜間誰が指導するかとかいう問題も抱えていて、非常に検討は要すると思います。それから、新築するならどうという言葉がありますが、最初の出だしが予算の関係もあって、既存のというところでスタートをしているという事で、今の段階で、新築がいいですねと私の口からは言いにくくて、またこの意見が出たところで、市長部局とも相談をしながら、基本的な計画を立てていく時に考えていかななくてはならないと思っています。しかし、非常に多くの地区で、多くの学校の整理をしなければならない。それから、そのままの学校を使うとしても、色々と教室の中の整理とか、教室の増築という事もあるかもしれないという事で、新築という事に直に結びつけにくい条件は沢山あるというふうに思っています。

〈委員長〉

はい、ありがとうございました。

丹後町の谷委員さんにお聞きしたいのですが、1番少ない人数が宇川中学なんですね。2校がそのままの場所の中で、例えば、里親制度を導入するとか、そういうような事は議論にあがったのでしょうか。

〈委員〉

里親制度という議論は、全く出ませんでした。

〈委員長〉

はい分かりました。

3校束ねた形の意見でも結構ですので、もう少し意見があればお願いします。

〈委員〉

先ほどの荒田さんの意見の中で、間人中学校が宇川中学校にいった方がいいという意見が出たんですけれども、委員さんの中にはそういう意見も出ることは出ました。

〈委員〉

今、耐震が劣っているという話がありましたが、新築となった場合に1校にするんだったら、中心ではなくて宇川地区に行ってもいいんじゃないかなという意見が1つと、それと、間人中学校が宇川中学校に行ってもいいんじゃないかという2つの考えがあります。全て中心へもっていくという考え方ではなくて、宇川は丹後町の地方という事になるんでしょうか、言葉がいけないかどうか分かりませんが、中心へ中心へ寄っていくまちづくりではなくてもいいんじゃないかという思いもする中での思いです。

〈委員〉

私の妹も宇川の方へ嫁いでいまして、子どもは宇川中学校を出ましたし、宇川の方々が言われるような、同じような事を言っています。小さくたって大丈夫みたいな感じの事を言っていますし、クラブの人数が少なくて子どもたちは何とかやっているし、何も問題はないというような事を言っていましたけれども、人数の問題もありますので、市が統合して1つにしますよというような方向を出されれば、きっと宇川の地区の人たちだって、そんな頑ななことばかり言っていられないと思います。今はそうやれるから、皆納得して、あくまでも統合したくない、宇川中学校を存続したいという気持ちでおられるのでしょうか、きっと柔らかい考えにもなってくると思いますので、大丈夫だと思います。

〈副委員長〉

先ほどから1つ新設等、色々な話が出ているんですけども、最終的に、久美浜もそうなんですけど、どうしても中心地でないとだめだという話が出た時に、先ほども教育長さんが、現状の施設を使っていくんだという事を言われたんですけども、これについては私も思うんですけども、例えば耐震だとか土石流の問題等、色々な諸条件があって、ここでは本来はだめなんだよという事がもしも決まっていたら、それも1つの視野に入るのではなかろうかと思うんです。そういう面では、今言ったような、合併はだめですよ、2つ絶対に残せと言うのではなくて、合併はしたい、しかしながら、こういう条件もという事は出されてもいいんじゃないかなと思います。それは、これから施設の問題が多分出てくると思いますので、そういうことからしたら、先ほどの先生ではないですけども、真ん中辺か、どこかにそれをもっていくという案は捨てたものではないと思いますので、それをきちっとした資料とか京丹後市のまちづくりの中できちっと明記すべきではないかなと個人的には思います。

〈委 員〉

久美浜町の中心地に拘るという事は、別にそれは頑なな意見ではないんですけども、久美浜町でも、もし高龍中学校の子どもたちが久美浜中学校に来て、同じクラブ活動をして帰る時間、バスで帰ったとしても、またバス停から家に帰るまでの距離が結構あって、その負担を考えると、なかなか街灯とか暗い中で歩いて帰る生徒たちもあるので、やはり同じ時間帯で帰るようにと思います。帰る時間が1時間近く違ってくる子どもたちもいるので、やはりそういったことを考えると、同じ時間帯に家に帰る方がいいんじゃないかなというような、そういったことを考えて保護者の方は中心と考えられていたみたいなんです。久美浜の場合でも、世代によって全く意見が違っておまして、学校の何十年来の伝統を重んじて、出来れば施設を少ないなりにでも残して欲しいという世代の方や、しかし、現実に学校に通わせている保護者の方にしてみれば、伝統より現実問題だと、2つの意見に立場によって分かれていたんですけども、久美浜の分科会の場合は、今、実際に子どもを通わせている保護者の方がほとんどでしたので、子どもの今の状況を考えると、クラブの事にしても、学習の面にしても、充実した学生生活を送らせてやりたいという意見がほとんどで、やはり1校という意見にまとまったように思います。以上です。

〈委員長〉

小中の一貫教育についての京丹後市や教育委員会はどういうスタンスですか。

〈教育長〉

小中の一貫教育という場合に、色んなパターンがありまして、特区的な指定を受けて、小学校6年生の間に中学校の教材もこなし、中学校3年生位になると更に上の教材をするとかいうことがあります。京丹後の中で見てみると、通学が義務教育である以上、同じような条件で受けられるような学校でないと具合が悪いだろうと、そこの地区だけの子が、特別なメリットをというのは非常に具合が悪いですから、そういう意味の小中一貫教育というのは、おそらくこの地域には適していないと思います。電車の通学がよくて、どこからでも通えるというところは別としまして、もしここで、小中一貫教育とするにしたら、小学校と中学校の先生が連携をとりながら、例えば、算数をこうする、中学校ではこうする、だから今というような連携の形になるだろうと思います。そういうことでしたら、今でも可能な状況にあると思います。ですから、新聞等でよくいっている特殊な教育課程を組む小中一貫教育というのは、京丹後の中では適していないのではないかと思います。義務教育を外れた場合は別だと思いますが。

〈委員長〉

はい、ありがとうございました。

時間もまいりましたのですが、特にご意見がございましたらお願いします。

〈委員〉

今の小中一貫教育のところで、立地条件的に網野の中学校のところに最終報告を入れておりますけれども、橘小と橘中は併設、ちなみに宇川小と宇川中も同一敷地内、そういう見方のところもあって、網野が最終報告で小中一貫をあげましたのも、これだけ隣接しているのですし、今言われたような、先生の連携もとれるであろうという意見もある中で、この文面だけは必ず入れておいてくれという意見がありましたのであげさせてもらっていますので、検討の中で一貫でということを入れてもらったらと思います。よろしくお願いします。

〈委員長〉

ありがとうございました。

教育委員会に聞くんですけれども、中学校の再配置について、検討委員会で議論する時間というのは、12月の答申に向けてございますでしょうか。

〈教育次長〉

今日、中学校の再配置について重点的に議論いただいたのですけれども、これで必ずしも論議を尽くしたというふうには感じられませんので、また次回は小学校を重点的にやっ

ていただくとしまして、再度、小学校、中学校ひっくるめた総括的な議論も必要ではないかと思います。今日は中学校の再配置という事でお話いただきましたけれども、網野分科会から、1学年1クラスが20名を切った時点を目安に再配置も止むを得ないのではないかという、1つの線といいますか、標準が示されておりますが、このことが同時に、久美浜町とか丹後町であてはまるのか、どのようにこの線が受け止められるのかという事をまたお聞かせ願えればと思っていますし、統廃合が実現した暁には、当然距離が長くなる場合にはスクールバス等の手配が必要かと思いますが、さりとて中学校の生徒数が100名とか90名とかある現状の中で、90名規模の生徒が再配置の拠点校に一斉に通うというような事が現実的なのかどうかといったことも議論になるだろうと思っていますし、先ほど新築の問題で教育長がお答えいたしましたけれども、当初の議論の出発点は、既設の学校、校舎を使ってという事でスタートしていただきましたけれども、この検討委員会の中で、どうしてもこういった姿の再配置を考えると、新設も止むを得ないという事が最終的に出てくるのかどうかという事は、今後の議論の推移を見守りたいと思っていますし、今日は平面図という形で小学校、中学校の再配置のイメージ図をお示ししておりますけれども、今後、年次計画を作っていく段階で、時間軸に沿ってどことどの再配置を先行させて、2番手でどこの地域を、どの学校とどの学校をどうするのかという数年間、或いはもう少し長い10年間位の見通しでもって、再配置を年次計画的に考えて行く必要があるかと思っていますけれども、そういった中で、段階的な再配置になろうかと思っています。

〈委員長〉

分かりました。

これから議論する中で、中学校についても、1回まとめの委員会が必要かなという気がしますので、それぞれまとめにあたって、通学バスの扱い、新築・改築についての扱い、耐震の扱い、最小限このところを越えたらバスはあります、或いは建替えもありますというところが少し見えてきたらという気もしますので、教育委員会でぎりぎりの線がこんなところかなというのを、明確でなくても良いですけれどもあった方がいいのかなという気がしますので、そこのところがある程度イメージされると、委員の皆さんもまとめの意見が出していただけるのかなという思いをしております。当然、予算もありますし、いつどんな時にアクシデントがあるかも分かりませんので明確ではないと思いますが、京丹後市教育委員会としては、大体こんなところで進めたらなあという思いを聞かせていただければ有難いと思いますので、よろしくお願いします。

今日はこれで検討委員会を閉じたいと思います。

〈教育次長〉

ありがとうございました。

それでは、4のその他で次回の開催日程を確認いただければと思います。

委員長、よろしくお願いします。

〈委員長〉

それでは、第7回委員会を8月に開催をさせていただきたいと思いますが、出来れば8月末の26日、27日、28日で、皆さん都合の悪い日がございましたら外したらと思っておりますが、いかがでしょうか。

いつでもよろしいでしょうか。

28日にさせていただきますでしょうか。27日にさせてもらいましょうか。

〈委員〉

26日がいいですけど。

〈委員長〉

それなら、26日にさせてもらいましょうか。皆さん、26日でよろしいですか。では、26日という事で。次回の開催は、8月26日火曜日ということで、時間につきましても今日と同じように午後7時30分から、場所は峰山庁舎のこの場所という事でございます。

これから12月の答申を目途に協議を進めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

〈教育次長〉

それでは、長時間に亘りまして第6回京丹後市学校再配置検討委員会をお世話になりまして、ありがとうございました。閉会に際しまして、大木副委員長様、閉会のご挨拶をお願い致します。

〈副委員長〉

皆さん、長時間に亘りまして、本当に熱心なご議論をいただきましてありがとうございました。今日、色々とお話を聞かせていただきまして、ふと脳裏に映りました。私たちが小学校の合併の時に、その時の町長が、合併をしてくれたらこうできますよというような事を言いました。合併をしないという条件で色々言ってもなかなか出来ませんよと、あくまでも、合併を承認さえしていただければ、町としても色々なことが出来るのではなかる

うかという町長の答弁でしたので、おそらく、これからもっと熱の入った議論になると思いますが、形の上では結論をある程度出しておかないと、市も答弁に困るという事が今後出てくると思うんです。そういうことを踏まえて、今までの会合の集約をそれぞれの地域でしていかないと、結果的には最後まで中途半端でいってしまうという事になりますので、ある程度結論を出した上での議論を市や教育委員会にぶつけてもらうという事が大事だと私は思います。次回も色々と議論があると思います。本当に夜分お疲れのところご苦労様ですけれども、ひとつよろしくお願い致します。皆さん、どうもご苦労様でした。

〈委員長〉

ありがとうございました。12月の答申に向けてという事ですので、これから8、9、10、11の4回ですので、小学校を3町ずつ8、9で済ませて、10を中学校のまとめ、11を小学校のまとめと、大きいくくりで議事を進めていきたいと思っておりますので、皆さん、ご協力をよろしくお願い致します。

〈教育次長〉

ありがとうございました。

それでは、これで会議を散会させていただきます。どうぞお気をつけてお帰りください。

〈閉会 午後9時26分〉

※次回開催日 平成20年8月26日（火）午後7時30分～（予定）

京丹後市役所 峰山庁舎 2階 201.202.203会議室